群教セ	F09 - 01
	令5.284集
	教育相談

一人一人が互いに認め合える生徒の育成
――ソーシャル・スキル・トレーニングとＩＣＴを活用した話合い活動を通して――

特別研修員　鹿田　知弘

Ⅰ　研究テーマ設定の理由

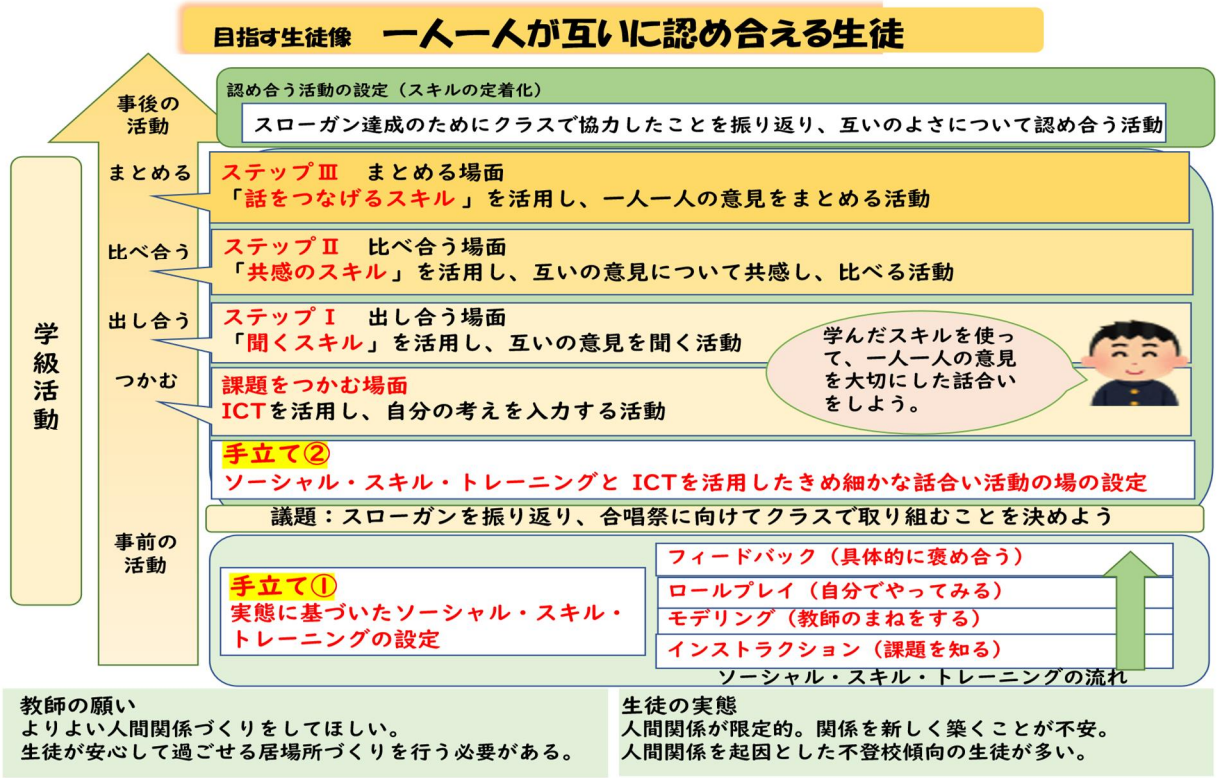
文部科学省の生徒指導提要（令和４年12月）では、「自他の個性を尊重し、相手の立場に立って考え、行動できる相互扶助的で共感的な人間関係をいかに早期に創りあげるかが重要となります。」と述べられている。このことから、一人一人が互いに認め合う共感的な人間関係の育成は、生徒指導の土台であり、実践上の視点として重要であると考える。

研究協力校の生徒は人間関係が限定的であり、新しく関係を築くことに対して不安を感じている生徒が少なくない。また、人間関係に起因する不登校傾向の生徒も多い。そのため、友達から認められたり受容されたりする場面を築いていく必要がある。そのためには、自分や友達の意見を尊重し、一人一人の考えを互いに認め合う場面を教師が授業の中で意図的につくることが大切であると考えた。

そこで、ソーシャル・スキルの中の「聞くスキル」「共感のスキル」「話をつなげるスキル」を取り入れた話合い活動を設定する。その中で、一人一人の意見を共有し、大切にするためにＩＣＴを活用する。「聞くスキル」を話合いの過程に取り入れ、互いの話をよく聞くことで、話しやすく認め合える雰囲気をつくる。そして、「共感のスキル」「話をつなげるスキル」を活用し、共感しながら互いの意見のよさを認め、よりよい方向にまとめていく話合い活動を設定する。このような活動を積み重ねていくことで、一人一人が互いに認め合える生徒の育成ができると考え、本研究テーマを設定した。

Ⅱ　研究内容

１　研究構想図



２　授業改善に向けた手立て

生徒が安心して発言し、一人一人が互いに認め合えることができるよう、以下のような手立てで実践を行った。

手立て１　実態に基づいたソーシャル・スキル・トレーニング（以下ＳＳＴ）の設定

関係を築くことが苦手で、不安な生徒が多いという実態から、事前の活動で「聞くスキル」「共感のスキル」「話をつなげるスキル」を設定した。インストラクション→モデリング→ロールプレイ→フィードバックの順番でそれぞれのＳＳＴを行う。

手立て２　ＳＳＴとＩＣＴを活用したきめ細かな話合い活動の場の設定

自分の意見を入力し、話合い活動をする際の参考にしたり、グループの意見をまとめたりする時のツールとしてGoogle　Jamboardを活用する。さらに、以下の３ステップのＳＳＴを取り入れた話合い活動を行う。

ステップⅠ：「聞くスキル」を活用し、互いの話を聞く活動（出し合う場面）
　　⇒相づちを打って聞いてもらい、自分の意見が大切にされているという安心感を得る。

ステップⅡ：「共感のスキル」を活用し、互いの意見について共感し、比べる活動（比べ合う場面）
　　⇒「自分の意見を受け入れてもらえた、一緒だ。」「意見の違いはあっても共感して聞いてもらえる」という安心感を得て、自信をもって友達との意見を比べる。

ステップⅢ：「話をつなげるスキル」を活用し、一人一人の意見をまとめる活動（まとめる場面）
　　⇒互いの意見を合わせることで、互いの意見が大事にされているという安心感を得る。一人一人の意見を大切にしながらグループの意見をつなげ、よりよい一つの意見にまとめていく。

Ⅲ　研究のまとめ

１　成果

○　ステップⅠの「聞くスキル」を使って話を聞く活動では、うなずいたり、「うんうん。」「確かに。」など相づちを打ちながら反応したりすることで話しやすい雰囲気になり、生徒は安心して意見を伝えることができた。

○　ステップⅡの「共感のスキル」を使って共感し、比べる活動では、自分の意見を伝え、受容してもらえることで、生徒は自分と友達の意見について、意欲的に比べることができた。

○　ステップⅢの「話をつなげるスキル」を使って意見をつなげてまとめる活動では意見のよさを認められるだけでなく、意見の違いを受け入れてもらえることにより一人一人が互いに認め合おうとする意識が高まり、よりよい意見につなげていけるというよさに気付くことができた。

○　ＩＣＴを活用し、一人一人の発言する時間を確保したことで、安心して意欲的に発言しようとする姿が見られた。

２　課題

○　学んだＳＳＴを生かし、「うなずく」「共感する」ところをさらに意識させるために、平易なモデリングやロールプレイを行うことで生徒は高い意識をもち活動に取り組むことができた。ＳＳＴを行う際には、本時の内容を更に深めるための焦点化した活動を行うことが必要である。

○　学んだスキルを更に活用し、定着を図るためには、教師からのフィードバックだけでなく、生徒同士がフィードバックできる場の設定を今後も継続していくことが必要である。

○　出し合う場面において、キーワード化された言葉を入力し、まとめたことで、話合い活動時にたくさんの会話が生まれた。話をつなげることを意識させるためにも、まずは、端的な言葉を使い、表現させる工夫が必要である。

実践例

1　**議題名**　「スローガンを振り返り、合唱祭に向けてクラスで取り組むことを決めよう」
（第１学年・２学期）

2　**本題材について**

本題材は、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説特別活動編の学級活動（１）「学級や学校における生活づくりへの参画」について、多様な意見を認め合いながら話し合い、目指していくものである。しかし、本校では、人間関係を築くことに対して不安を感じている生徒が多く、話合い活動において、自ら意見を述べられない生徒が見られる。そこで、本題材では、事前の活動で話合い活動のスキルを学び、それを本時の話合い活動で活用しながら互いの意見を認め合い、共感的な人間関係の育成に取り組むための授業づくりを行う。

以上のような考えから、本題材では以下のような指導計画を構想し、実践した。

目標	(1)　知識及び技能 ・合唱祭に向けて力を合わせて取り組むことが、集団活動の向上やよりよい人間関係の形成につながることを理解させるとともに、合意形成の手順を身に付けることができるようにする。 (2)　思考力、判断力、表現力等 ・学級で決めたスローガンを達成するための取組について話し合う中で、互いのよさを認め合いながら合意形成を図ることができるようにする。 (3)　学びに向かう力、人間性等 ・クラスで決めた合唱祭のスローガンの達成に向けて活動を行いながら、主体的に他者と協働し日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。
評価規準	(1)　知識・技能 ①学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解している。 ②合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。 (2)　思考・判断・表現 ①学級や学校の生活をよりよくするための課題を見いだしている。 ②課題解決に向けて話し合い、互いの意見を認め合いながら多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。 (3)　主体的に学習に取り組む態度 学級や学校における人間関係を形成し、見通しをもったり振り返ったりしながら、他者と協働して日常生活の向上を図ろうとしている。
過程	主な学習活動
事前の活動	・クラスのスローガンを決定する。 ・練習を振り返り、端末から合唱の取組について Google フォームでアンケート①「スローガンを達成できているか」、アンケート②「理由」について回答させる。 ・アンケート①②から計画委員が合唱祭に向けた今後の取組について題材を設定し、課題を明確にする。 ・話合い活動を活発に行うために、「聞くスキル」「共感のスキル」「つなげてまとめるスキル」についてのＳＳＴを行う。
本時の活動	・クラスのスローガンを振り返り、課題を解決するための話合い活動を通して、学級の生徒が力を合わせて集団活動に取り組むことができるようにする。 ・ステップⅠ「聞くスキル」、ステップⅡ「共感のスキル」、ステップⅢ「話をつなげるスキル」を使ってグループで話合い活動を行う。 ・互いのよさを認め合いながら合意形成を図る。

事後の活動	・話合いで深め、合意形成したことを実践する。 ・自己の取組について、教師や友達からのフィードバックを得ることで互いに認め合うよさを感じたり、次の課題解決に生かしたりすることができるようにする。 ・スローガン達成に向けた取組を一週間実践したことを振り返り、自己評価をしたり互いのよさについて認め合ったりする。

３　本時及び具体化した手立てについて

本時では合唱祭に向けて考えたクラスのスローガンを振り返り、課題を解決するための話合い活動を通して、学級の生徒が力を合わせて集団活動に取り組むことができるようにする。

この課題を解決するために、生徒が安心して自分の意見を述べ、一人一人が互いに認め合えるよう、以下のように手立てを具現化した。

手立て１　実態に基づいたＳＳＴの設定

生徒の学校生活における人間関係の様子やアンケート結果などを踏まえ、学級の実態に必要と考えられるＳＳＴを設定する。設定したＳＳＴについてインストラクションを行い、実際にモデリングを示す。その後、実際にロールプレイを通して体験し、フィードバックをさせることで、話の聞き方や共感の仕方、話のつなげ方について学ぶ。

手立て２　ＳＳＴとＩＣＴを活用したきめ細かな話合い活動の場の設定

手立て１で学んだスキルを生かして話合い活動を行うために、まず、Google　Jamboardの付箋に自分の意見を入力させる。入力した意見を基にグループで話合い活動を行う。

話合い活動では、学んだスキルをステップⅠからステップⅢまで場面ごとにきめ細かく設定し、モデリング、ロールプレイを行った後にスキルを生かした話合い活動を行う。

４　授業の実際

(1)　手立て１　実態に基づいたＳＳＴの設定

学校生活における生徒の友達同士の関わり方やトラブルの様子から、「聞くスキル」「共感するスキル」「話をつなげるスキル」を設定し、役割を交代しながら言葉掛けの仕方を練習した。

選んだＳＳＴを放課後の短学活の時間を使って、５日間に分けて行った。１日目は「聞くスキル」２日目は「共感するスキル」のモデリングとロールプレイまでの過程を丁寧に行った。３日目は「聞くスキル」「共感するスキル」を合わせた話合い活動、４日目は「話をつなげるスキル」の実践を行い、５日目は学んだスキルを全て使って話合い活動を行った。モデリングやロールプレイを行った際には、生徒は笑顔でうなずいて話を聞いたり、受け入れたりしている様子が見られた。また、学級活動の話合い活動を行うことを楽しみにしている様子や、その後の生活に意識してスキルを活用している様子も見られた。

(2)　手立て２　ＳＳＴとＩＣＴを活用したきめ細かな話合い活動の場の設定

導入では、事前の活動で取ったアンケート結果を大型モニタで示し、話合うことの内容を確認し、学んだスキルを話合い活動に生かすことを想起させた。

ステップⅠでは話合い活動を実際に始める前に、「聞くスキル」について教師がモデリングを行った(次ページ図１)。生徒は「聞くスキル」について具体的に想起し、ロールプレイを行うことができた。その際、うなずいて話を聞いたり、相づちを打ちながら話を聞いたりすることで、グループの雰囲気が変わり、多くの生徒が安心して話合いに参加する様子が見られた。

ステップⅡでは「共感するスキル」を活用して相手の意見に共感しながら話を聞いた。グループで話をする際に、うなずきや相づちの他に「なるほど」「わかる」と、スキルを意識して言葉を掛けていた。自分の意見を受け入れてもらえているという安心感が増し、話しやすくなった様子が見られ、ステップⅠ同様に意欲的に自分の意見を伝える様子が見られた（次ページ図２）。

ステップⅢでは「話をつなげるスキル」を活用して話合い活動を行った。グループで出された意

見について「〇〇な部分は私たちの意見とは違う。でもこの部分は一緒だね。」など、話をつなぐことを意識して会話をすることで話合いが進み、意見をよりよくまとめようとする様子が活発に見られた。そして、グループで出された意見は全て黒板に掲示し、全体共有を行った。そこからグループの話合い活動同様に黒板を使って全体でグルーピングや意見共有を行い、話をつなげるスキルを活用しながらクラスで取り組むべき内容について全体で話し合った（図３）。

図１　教師のモデリング

話合い活動を行う前にスキルを想起

図２　ステップⅠ・Ⅱ

「聞くスキル」「共感のスキル」を活用

図３　ステップⅢ

「話をつなげるスキル」を活用

(3)　まとめ

クラスで取り組みたいことを全体で確認し、本時の内容を振り返った。グループの話合い活動では意見交流が活発に行われ、計画委員を中心に合唱祭に向けてクラスで取り組む内容を決めることができた。後日、ＳＳＴを行ったことについてアンケートを行ったところ、「一人一人の意見を大事にしたら友達との話合い活動が楽しくできたので、必要なスキルだと思う。」「今後の人間関係を築くためには、互いに認め合うことが必要。そのために、スキルを上手に使いたい。」などの振り返りを得た。スキルを活用した話合い活動を行ったことで、一人一人が互いに認め合うよさに気付けたと考えられる。

５　考察

これまでの話合い活動では人間関係に不安があることで、周囲を気にして自分の意見を述べられない生徒が多かった。また、発言力のある生徒が中心となってしまい、話合い活動で自分の意見を言えない生徒もいた。しかし、本研究の手立てを取り入れたことにより、以下に示すような生徒の変容が見られた。

手立て１において、「聞くスキル」「共感のスキル」で聞き方や共感の仕方を学び、話に「うんうん。」とうなずいたり、「意見は違うけど、あなたは〇〇と思うのだね。」など、共感したりした。このようなスキルを活用することで自分を表出することへの安心感を得ることができたと考える。また、「話をつなげるスキル」を学び、よりよい意見にまとめる方法を知り、実行することができた。

手立て２では、ＳＳＴを活用したきめ細かな話合い活動の場の設定を行い、一人一人の意見を表出させる場を確保するためにＩＣＴを活用した。Google　Jamboardを使用し自分の考えを付箋紙に入力させ、それを基に発言をする場を設定した。一人一人の意見を大切にする場面の設定により、自分の考えに自信をもつことができ、他の人の意見も共有できることで安心感をもって話合いに臨む様子が見られた。また、入力の時間を十分確保し、一人一人の発言の時間を確保したことで、自分の考えが大切にされるのだという実感を得て、活発な意見交流につながったと考えられる。そして、各スキルの活用を場面ごとにきめ細かく設定したことによって、スキルを想起しやすくなり、グループでの話合い活動、全体での意見の交流が活発になったと考えられる。事後の活動においては、スローガン達成のためにクラスで協力したことを出し合い、互いのよさについて認め合う活動を行った。「〇〇さんは、声の出し方についてみんなに声を掛けていた。」など、主体的に意見を述べる生徒が増え、スキルを活用して話を聞く様子も徐々に増えてきた。スキルを活用し一人一人の意見を認めたり多様な意見に触れたりすることがよりよい関係づくりにつながると、生徒自身が実感できたと考える。

以上のことから、本研究の手立ては、一人一人が互いに認め合える生徒の育成を行うために有効であったと考える。

６　資料（実際に生徒が使用したGoogle　Jamboard　の記録）

【グループでの話合い】

自分たちがスローガンを達成するために、取り組みたいこと

- 歌うときの表情の練習
- 大きい声を出すこと
- 歌詞に感情を入れる

自分たちがスローガンを達成するために、取り組みたいこと

- パートごとの練習
- 撮影をして見る
- 歌の聞き合いをする

自分たちがスローガンを達成するために、取り組みたいこと

- 円陣を組む
- 歌詞を書いて掲示する
- アドバイスし合う

自分たちがスローガンを達成するために、取り組みたいこと

- メリハリをつける
- 声量の強弱をつける
- 胸を張って歌う

【全体のまとめ】

自分たちがスローガンを達成するために、取り組まなければならないこと

- ○スローガンを大きな声を出してみんなで言ってから練習に入る
- ○歌い終わったらアドバイスをし合う
- ○給食の時間に音楽をかけて、音程の確認をする

本報告書に掲載されている商品又はサービスなどの名称は、各社の商標又は登録商標です。
＜各社の商標又は登録商標＞
Google Jamboard　Google フォーム　は、Google LLCの商標又は登録商標です。
なお、本文中には ™ マーク、 ® マークは明記していません。